

## 全体会午後の部Ⅱ

**司会者 (ag・by)** それではただ今より、全体会午後の部Ⅱを行いたいと思います。

午後の部Ⅱの司会を担当させていただきます藍住中学校1年 ag と、松茂中学校2年 by です。よろしくお願いします。

後半も2本の意見発表があります。まずは後半1本目の意見発表です。藍住中学校3年 aa さん「訴えることの大切さ」です。よろしくお願いします。

### 「訴えることの大切さ」

藍住中学校3年 aa



**司会者 (by)** ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、後半2本目の意見発表です。高校生による共同作品動画「キラキラ☆メモリアル～僕らの青春～」、今から4人の高校生が作成した動画を見ていただきます。

### 「キラキラ☆メモリアル～僕らの青春～」

高校生による共同作品動画

**司会者 (by)** 以上で、午後の部Ⅱの意見発表は終了しました。

それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表につい



での感想や意見交換、参会者の皆さんの思いを語っていただければと思います。また、前半で発言しきれてない人や、付け加えるような内容のある人は、これが最後のチャンスとなりますので、ぜひ発表してください。

なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願いします。

**板野中学校1年 (ar)** 私の友達に性的マイノリティを持っている子がいて、小6の時に、その子が勇気を振り絞って私にそのことを教えてくれて、自分を頼ってくれてると思わせてくれて、すごく嬉しくて。相手が、それを他の人に言えずに苦しかったということがすごく伝わってきて。私だけでもわかってあげられてよかったという気持ちがすごいたくさんあって。これからも相手の心に気をつけて生活していきたいなど



思いました。

**板野中学校 3年 (ao)** 昔の時代よりも、性的マイノリティの方が、私もそういうところがあるんですけど、そういう人たちが生きやすい世界や社会にするためにも、こういう「人権を語り合う中学生交流集会」などのようなものは必要だなと思いました。それで、実際、私もさっきの発表で救われました。ありがとうございました。



**八万中学校 2年 (bg)** aa さんの発表を聞いてなんですけど。私の母方のおばあちゃんの家に行った時の話なんですけど。テレビを見て、不意に身体は男性だけど、心は女性なんだみたいな芸能人の方が出てきて。その人をおばあちゃんが見た時に、「何でこの人は男なのに、女の格好をしているの？」みたいな話をしてたんですよ。お母さんは、そういうことにわりと理解がある方の人なので、「そういう人もいるんだよ」みたいな話をおばあちゃんにしてたんです。そしたらおばあちゃんは、「その人、男なんやろ。なら男の人らしくしとかなあかんのと違う。変な格好したらあかんのと違う」みたいな話をしている。ああ、まだ理解は行き届いてないんだなと思ったんです。確かに、おばあちゃんみたいに、「女らしく」「男らしく」っていう考え方もあると思うんですけど、そう言い切れないというか、「そうじゃない人もいるんだよ」ということを、私た



ちが高齢者の方に向けて、または小さい子どもたちに向けて、発信していかなければならないのかなと思いました。以上です。

**瀬戸中学校 3年 (aw)** あまり文章まとまっていないんですけど。さっき、性的マイノリティの話があったと思うんですけど、私のお母さんは、男性の人でメイクをしていたりとか、そういう人を見ると、「男の人でメイクしとるの変やなあ」とかすごい言うんです。テレビとかで最近よくいらっしやるんですけど。そういう人を見かけた時に、なんでしとんみたいなのを言うんです。私は、いつも、「そうかなあ」みたいにはぐらかすんですけど。私は、別に男の人でもメイクしてもいいと思うし、髪を長くしても、別にその人の好きなことだからいいと思うし。「周りに別に言われる筋合いがないよな」と思うし。その人の生きたいように生きてる方が、私は素敵やなと思うし。それが、その人が傷つくことを言う方がダメと思います。

人権集会でみんなの意見を聞きよって、すごい思うようになったし。もし友達で、女の子で同性が好きとか、そういう子がいたりとか、男友達とかできたとしても、「同性が好きなんよ」とか、そういうのを言われても、私は、「ああ、いろんな人の良いところを見つけられるんやな」とか、別に異性愛の人が悪いとかじゃなくて、いいなあ

とか素敵やなあと思ってるんで、そういう考えを広めたらいいなって。そういう考え方の人を敬遠とかそういうんじゃないで、素敵やなって思えるような考え方が広まってほしいなって思いました。



**香川県人権塾あゆみ会 ea** 私は、香川県の三豊市、(香川県の)西の端の方なんですけど、その豊中町というところで、「NPO 法人 Peace」その中に、「人権塾あゆみ会」というのがあるんです。そこから来ました ea と言います。中学生の会になるべく大人は登場すべきではないということを自覚したうえで、2つ言いたくてマイクを持たせてもらいました。

1つは、この「人権を語り合う中学生交流集会」の意味。もう1つは、aaさんが発表された中身の性的少数者に関わること。2つ言わせてください。

まずは、中学生交流集会の意味ですけど、記憶に間違いがなければ、この会につながる前身の会で、1996年が第1回だったように思います。間違いかもしれません。その頃に、三豊市に豊中中学校というところがあって、豊中中学校から子どもを10人くらいと、私も当時豊中中学校の先生でしたから、数人の教員で第1回目の会に参加させてもらいました。

当時は、圧倒的に板野中学校の教育、森口先生と吉成先生、この2人が打ち立てられた教育が、言うたら四国地区を席卷して

おりまして。私なんかは、畏れを抱きつつ、その第1回の中学生集会に豊中中学校の子どもたちを連れてやってきました。

やっぱり、会の雰囲気ってすごいですよね。大事ですよね。豊中の方から来た子どもがしゃべれんやろと思ったんですけど、徳島県の板野を中心とした中学生の雰囲気について影響を受けて、どんどん発表をして帰ったんです。

それ以来ずっと今日まで、中学生集会を継続してやってこられたことはすごいなと思うんですが、三豊市からの参加は残念ながらいろんな関係で参加が中断し、ここ数年また中学生交流集会に参加をさせてもらっています。

間違いなくこの会の影響を受けて、徳島県ばかりにいつまでも頼ったのではいかんということで、香川県の三豊市と、隣に観音寺市というところがあるんですけど、地元でこの集会と同じような会を開こうということで、去年、第1回目をやりました。今年、8月20日に第2回目をやります。

一番前に(三豊市立)高瀬中学校の生徒らが座っていますが、なかに実行委員をしてくれる7人も座っています。きっと8月20日には、この会の影響を受けて、びっくりするくらいの意見発表をしてくれると思います。三豊市、観音寺市の中学生も皆さんと同じように活発な意見発表をやるんですが、私はここに座りながら、第1回目の会のイメージを思いながら、今日また、「やっぱり勝てんわ」と思いました。勝ち負けではないんですけど、「やっぱり勝てんわ」と、私は思っています。なぜかという、(午前の部の)一番最初の講演会の時に、吉成先生が皆さんに投げかけましたよね。吉成先生は、皆さんに「今、皆さんは、こっちのフロアの方で講演を聞く側にいるけど、先では講演する側として前に座るんですよ」と言われていました。

そこに、去年講演されたシンジさんが座ってますけど、確か、1回目、2回目に中学生として参加し思いを語っていますよね。(近くの席に座っているシンジさんに確かめながら)私、覚えているんです。会場はここではなかったですけど。シンジさんや午前中に発言したタクヤさんと会をリードしていたその時の実行委員長の姿も覚えています。なんか、面倒くさそうに出てきて、ベルトを腰からブランと下げて。けど、言うことはしっかりしているんです。



何が言いたいかという、あれから28年経った今もここに座られている。去年は講演をされました。もうおいでませんが、金時芋をつくっておられる、何とかさん(タクヤ)は、同年齢ですよ。つながって、この地で、この会をずーっと経ながら、鳴門市人権フォーラムという大人の語り合う会、そんなところにも登場しながらおるんです。それでチェリーさん、はなちゃんさん、やっぱりここで仲間をつくって、それでまた大人の会で語って、中学生に自分の思いを伝えるために来られとるっていう。確かに三豊市、観音寺市の中学生も、きっと8月20日には、皆さんに近いような語りの会をしてくれると私は思ってるんですが。けど、今のところはそこまでなんです。中学生の会をやって、そこで語り合いをして仲間をつくる出発点を通過する、それ大事なんですけど、私は先までやりたい。だから高校

生になって中学生の会に来てもらって、私たちの方は午前中に中学生の語る会をやって、昼から大人の語る会というのをやるというパターンで集会を始めました。

それで大人の会にも中学生の会を経た子どもたちが参加するようになって、やがてはパネラーとしてね、前に立って中学生の前でしゃべる。そういう人を本当につくりたい。だからさっき言ったはなちゃんと、チェリーさんという存在がね、もうよだれが出るくらい羨ましくて仕方がない。絶対そういうような形をつくってね、三観地区という場所に、人権を語り合って、差別をなくしていける場所を作りたいなと思うところなんです。ところが、私68なんです。こうやってシンジさんや、金時農家さんみたいな方が出るまで、私少なくともあと20年は生きなアカンと。88になります。頑張っ生きていたいと思います。だから本当に、きつこの中からまた出てくると思います。10年後、20年後、吉成先生が語りかけた前で、今度は中学生に訴えかける人が出てくると思うんです。けど、そうやって場所を離れて香川県の西の端の方で、この集会を真似て、三観地区でも、ちょっとでも成長しよう、近づこうという存在もあるんだということを知ってください。皆さんの誇りにしてください。そして、さらにこの会を質的に盛り上げてほしいと思います。

時間が経ち過ぎたので、性的少数者についても触れたいんですが、時間がないので、あまり言うたらいかんです。また意見が途切れるようでしたら言いますが、是非、伝えたいなと思ってマイクを持たせてもらいました。あとまた頑張ってください。

**板野中学校3年(am)** 度々申し訳ございません。またもや思い出したのでもう一つ。性的マイノリティというよりは、どちらかというと、「男らしく」「女らしく」の方に近



いんです。ボク、小学校4年生の時に、金管バンドクラブに入ってまして。当初友達4人くらいと、ボクの男子5人くらいで入りに行っただけです。入って、昼休みに練習していたら、1週間くらい経った時に一緒に入った3人が抜けて。「何で？」って理由を聞いたら、お父さんやお母さんに「金管とかの楽器は女の子のすることだからしたらあかん」ということで、「やめな」と言われてしまったらしいんです。残りの3人も、1年後くらいにちょっと合わなくなってやめたんですけど。小学校4年生くらいの小さい時期って、5年生や6年生になったら、もう少し考えられるようになるかもしれないですけど、4年生くらいって、親とか先生の言っていることが大概正しいだろうと思って行動するじゃないですか。「親がそんなに間違っただけを言っているわけがないやろ」という感じじゃないですか。基本。だから、その小さい子どもの時に、親は、少なくとも人権とか差別に該当しそうな、間違っただけを言っている時に、まだ、それは違うんじゃないかと自己判断ができない場合も多いから、そういう子どもを減らすためにとか、なくすために、学校とか人権学習もそうだし。今だったら、人がいっぱいいるし話す機会もあるかもしれないけど、できれば小さいうちから、人権だったり、せめて道徳の本の内容について語り合ったりする機会がもっとあれば、そ

ういう子も減らせるんじゃないかなと、話を聞いていて思いました。以上です。

**板野中学校3年(ak)** 今からボクが言うことは、今回のこととは論点がずれているかもしれないけど、生活に役立つすべてのことに言えることなので、ちょっと皆さんにお伝えしたいなって思います。



この前、ボク、ユーチューブを見ていたんですよ。すごい良い言葉が流れてきて。ユーチューブショートなんですけど。とあるユーチューバーの方が、「もし差別をする人がいるなら、相手を『They』で括るのではなく『You』で括ってあげてください」みたいな。わかります？例えば、性的マイノリティで言ったら、相手がゲイの方であったら、「ゲイの人はどんな恋愛をするの？」って聞くのではなく、「ゲイであるあなたは、どんな恋愛をしているの？」と聞くといらしいです。それを、『They』で括ってしまうと、他の人も含まれてしまうわけですよ。例えばボクは、今「ボク」って言っていますけど、別に男の子になりたいとか、そういうわけじゃなくて、「わたし」という3文字が面倒くさいから言っているだけで、そういう、男の子になりたいとなくとも、第一印象が、さぼりたくて「ボク」になっているタイプで、そういうのが「トランスジェンダー」だとよく勘違いされちゃうんですけど。そろそろ直さなくちゃいけないん

ですけど。「トランスジェンダー」と括られると、別にトランスジェンダーじゃないし、全然恋愛対象男の子だし、女の子をそういう目で見れないしみたいな、そういうことがおこっちゃうんですよ。相手を見た時に、例えば人権作文の中に、「気持ち悪い。私の家族は、男なのに女性の服装をしている人を見てしまうと、必ずそう言います。」と書いてあるんですけど。多分、そういう人は、相手がある一定の縛りで括ってしまっているからですよ。だから、そういう人たちには、その人がどういう経歴でそういう格好をしているのか。もしかしたら、ただコスプレをして歩いているだけかもしれないし、その人が女性に憧れてて女性の服装をしているか。女性になりたいくて着ているのかということ、こちら側では話さない限り判断ができないわけです。なので、そういった差別とか、そういうことに、今ここにいる人たちで、「どうやって差別を避けたいんだろう」と悩んでいる人たちにも知ってほしいので言ったんですけど。自分たちを「I」。相手の普通の人でも、心に違和感を覚えている人でも、相手のことをひとまとまりにするんじゃないで、「You」として、「私はあなたを見ているよ」という感じで会話をしてあげると、あまり差別にならないのではないかという動画が流れてきて、ボク的にはすごい腑に落ちたので、皆さんにお話ししたいと思いお話をさせていただきました。以上です。

**T-over 人権教育研究所(dx)** こんにちは。板野中学校の卒業生であり、今、徳島市内の小学校のPTAの会長をしていて、かつ、徳島市内のPTA 連合会というところの理事をやっています。そこでいろんな活動をしています。貴重な中学生が語る時間にお邪魔して申し訳ないんですけど、後半になると自分たちの手を挙げる時間ってないんじや

ないかなと思い、先に発表させてください。

1回目からこの会に深く関わり参加していて、午前中に鳴門金時のたっくんと一緒に来させていただきました。彼と来る途中に「楽しみやな」という会話をしながら来ました。彼とは、板中からのつながりがあり、お互いの言いにくいことも言い合える関係なんですけども、結構、食い違いというのがあります。



午前中のはなちゃんとチェリーさんの話を聞いた時に、息ができませんでした。呼吸が止まるというか、せこうなる(息が詰まる)というか。ボクは、娘に対して部落であることを語るというところで、息が詰まりました。

どうして詰まったかと言うと、チェリーさんの語りの中で、旦那さんの前の奥さんが当事者でありながら、でもそれを子どもに語っていない。その子どもが実際に部落であることを調べられた時にどうするのかなということ聞いた時に、目茶苦茶胸が詰まって。今も、自分のことで、知らないところで自分自身を傷つけることっていうのがあるかもしれないと思うと、ゾッとする気持ちになりました。それでせこうてせこうて。

今日は、昼一旦家に帰っていたんですが、「この思いを何とかならんかな」とたっくんと話をしながら帰って。akさんとかも午前中もそうですが、元気な笑顔を見ながら、

発表を聞きながら元気づけられるというか。ボク自身も中学生集会という言葉が大好き。今、自分の子どもと置き換えて見ている感じもするんですけど、「自分の子どももこうだったらいいのにな」とか、「意見をスラスラ言えるようになったらいいのにな」「これをどうやって広めようかな」というのがずっとあります。

ボクは、徳島市内の連合会に参加しているんですけど、去年は、市長さんとお話しすタイミングがあって。市長さんと話すタイミングがあった時に、本当はやり取りを事前に提出して、同じものを言わなければならぬシステムだったんですが、市長さんが「ご意見ないですか？」と言われた時に、なかなか「同和問題」とか「部落問題」ということを市長さんに言えない心苦しきもあって、その時に言ったのが「人権問題について」という一言にしてしまったというのもありました。

去年はそういう環境で生きてきて、今回、先日、また連合会でそういうお話をする機会があったんですけど、その時に、この中学生集会のことを自慢したくて。「こういう生き方をしている子どもたちがいるよ」という部分で、共感をしてくれた仲間が今日来てくれています。

同じ徳島市の連合会の副会長をしているfiさんが、今日の会に来てくださっているんですけど。全然、今まで人権の話とか、同和問題の話とか、部落問題の話とかをしてない環境でも、同じグループに居って、隣に居って、まあまあ勇気がいったんですけど、その話をしたときに。話をしたときに、スッと返してくれるというか、そういうのがすごく居心地がよくて。中学生集会の仲間づくりというのをどうしてもつなげたいというか。自分が成長するために自分のことを語るというのはわかっているんですけど、自分らの子どもたちが、どうやっ

て自分たちで気づいてやっていくかなとなった時に、こういう場あるというか、思いを届ける作業というのをやっぱりする必要があるのではないかなと思って。もう少しで終わりますので。

午前中来ていたたっくんと、最近よく食い違いがあるっていうことは、彼は「地区である」ということを娘に対しては、背中を見せて教える。言わない。自分の口からは。ボクは、そのステージを敢えて用意をする。「そこまでせんでもいいんじゃない」「いやいや」というので結構あるんです。それも、笑いながらというか、お互い尊重しつつ言い合ったりするんですけど。そういう、仲がいいのにどこかで食い違いがあるのをお互い突っ込んだりという、すごい良い関係性で。だから、いつもわかってくれる子が隣にいるわけじゃないし、それをわかってもらうためには、やっぱり、自分の気持ちっていうのを届ける作業ってするのはすごく大事だと思うので。

さっきもfiさんが10分間の休憩中にグイグイ話をされてきて、トイレに行く間もなく、始まってトイレに行っただけくらいで。fiさんが良い話をされていて、またfiさんの口から聞いてもらえればと思うんですけど。こういうつながり。みんなのやっている作業というのが、ボクがどこかでつなげていけるという頑張りにもつながっているんで、本当にみんなには感謝しかないです。ありがとうございます。

**高瀬中学校3年(cr)** さっき、性に関する話があったので、ボクもその話をしようと思います。ボクは、メンズメイクに興味があって。もう家族とかに話をしていて、姉が暇な時にやってくれるって言うから、「初のメンズメイク来たぞ！」と思って楽しみにしていたんですけど、その時は、結果はとてつもなく似合わず終わって。家族で笑っ



て終わったんですけど。でもその時は、その話をしても、家族では誰もボクに違和感を持つ者はいなかったし、普通に「似合うんだったらしてもいいんじゃない」っていう感じだったんです。その話を友達とかにした時も、友達も誰も変なふうに思っていないで、「いいやん」ぐらいでおったんですけど。「また見せてな、おもしろいやったら」みたいなので終わったんですけど。友達がそんなふうに思ってくれたっていうことを思い出して。性的マイノリティのことを考えた時に、もし友達がボクに性的マイノリティがあって、ボクに明かしたとしたら、ボクが、もし友達に明かしたとしたらどうなるんだろうなと考えた時に、きっとボクは友達のことを素直に応援できるし、友達もしてくれると思います。お互いに、異性との恋愛を話すみたいに、何の変わりもなしに「好きな人、誰なん？」とか、そんな話ができると思います。今、そういう問題で困っている人たちは、そういう、本当の自分とかを素直に話せる人が、周りに1人でもいたらきっと楽だと思っし、そういう人がこれから増えていったらいいと思います。

**高瀬中学校 3年 (cn)** 性的マイノリティと関連して、LGBTQ っていう言葉があるんですけど、私は、その言葉自体が縛っているように聞こえていて。さっき ak さんがおっし

やっていたこととすごく似ているんですけど、LGBTQ っていう言葉で話をするんじゃないで、その人、一人一人の性を認めてあげたいなって私は思っています。以上です。



**司会者 (ag)** どうもありがとうございました。先ほどの発表に関連する事柄や、新しい話題を取り上げてくださってもいいですよ。

**松茂中学校 2年 (bx)** ボクは、さっきの高校生3人の映像を観て、「個性」って書いてたじゃないですか。いつもその3人には、「人権こども塾」に入った時からすごいなあと思っていて。中学生集会でもすごくいい語りをしていて。「人権こども塾」でもすごく真剣に考えて語っていてすごいなあと思いました。

さっき、性的マイノリティのことについて話していたじゃないですか。ボクの家族は特にそういうのに対しては、言い方が悪いですけど、無知な方で。例えば男性の人が女性の格好をしていたりとか、ボクは何とも思わないです。家族もそうなんですけど。でも有名人の人とかでも、たまにそういう人がいるじゃないですか。その人の記事とかのコメントを見てみると、なんかちょっと、心無いコメントとか、「気持ち悪い」とか、そういうのが多くて。まだ理解が進んでないんだなって思いました。

最近、br さんが良いことを言っていたんですけど。部落問題についてなんですけど。

まず、この br さんが言うには、「部落差別ってそもそも、部落差別って言うことが差別になっているんじゃないか」って言って。そういう言い方をするからこそ、差別が起きているんじゃないか的なことを言っていて、説明がちょっと下手ですが、こういう性格なので、上手く説明ができないタイプなんです。そう言っているのを聞いて、良いことを言っているなあと、少し触れてみました。ありがとうございました。



**高瀬中学校教員(ec)** 控えておこうかと思ったんですけど、ea 先生よりまだ3つも若いので一言だけ。

今の部落差別のことで、高瀬中学校の3年生には特によく聞いておいてほしいんです。去年の人権・同和教育の研修会でこんな話題がありました。

「人権・同和问题学習の授業をして、生徒から質問があったら、どう答えますか？」

学級担任へのQ&A、その「Q&A」の「Q」ですが、「先生、部落ってどこにあるんですか?」「先生、部落差別って何ですか?」「同和问题って何ですか?」と聞かれたら香川県の先生方は、どう答えられるんでしょう。

実は、各学校で「こう答えましょう」というマニュアルをつくったりしているんですね。

「同和地区って、ないんですよ。どうして

あなたはそういう質問をするんですか?そのあなたの心の中に差別の心はないですかということ問い直しましょう」というようなことが書いてあるんですね。

もっと軟らかいんですけど。そんな答えが、私には馴染まなくて、馴染まなくて。

自分自身の答えとしては、また後で言いますが、ちょっと別のことを考えているんです。

今日、たくさんの方が被差別部落に生まれて、dx さんも20年間こういうことをしっかり考えて活動していられている。今、PTAの中でも一生懸命頑張られているけれども、「自分のお嬢さんには、そのことが語れないんですよ」ということをさっきおっしゃいました。

それが今も部落差別の現状であり、しんどいんです。

そんなことをたくさんたくさん学んでいるんだけど、香川県で、高瀬中学校で、そういった授業をする時に、なかなか同和问题、部落問題について真っ正面から語れないんです。

もし生徒に聞かれたらどう答えようかということ、去年も話し合っていて、私はこんなふうに考えています。

「先生、部落ってどこにあるんですか?」と聞かれたら、「それは君の心の中にあるんだよ。」

「あの人は部落の人だ。」あるいは、「同和地区ってどこだろうか。」

今は、法的には同和地区ってないわけですね。そんなことを聞かれた時に、「キミがその人とどう接していくのか、どう考えていくのか、この問題をどう解決していくのか。そのことと向き合った時に、あなたの心の中に部落が生まれてくる、同和问题が生まれてくる。」

上手くは伝えられないんですけど、そんなふうに答えたいな、3年生たちともそんな

勉強をしたいなと思っています。

つまり、生まれたところへの「偏見や差別の心」で部落の人たちに接したとき「部落」という言葉はマイナスの意味をもちます。

心の中に「部落」がゆがんだ形で現れてきます。

でも、そこに生まれた人たちの優しさや温かさ、差別に負けない逞しさにふれたとき、「部落」という言葉は消えてなくなり、ふるさとへの「誇り」や「ぬくもり」、「人間らしさや温かさ」が輝きながら現れてきます。

今日、出会ったはなちゃん、チェリーさん、シンジさん、そして、森口健司さんが輝いて見えるのは、そういう理由です。

だから「部落差別は、キミの心の中にある」んです。今日、高瀬中学校の3年生のみんなは、たくさんの部落出身の方と出会いました。そのことを分かって、しっかり話を聞いてくれていると思うし、そのことを伝えていくことは、また難しいことなんですけど、本当に今日のことをきっかけに、しっかりと語れる、聴ける、そういう態度を身につけてくれたので、私自身もしっかりとみんなに伝えたいなと思っています。

今日、皆さんが語ってくれた「LGBTQ」や「性的マイノリティ」の問題もすごく大切です。そのことを本気で語り合える関係が問われています。今日、皆さんが聴いた部落のお父ちゃんやお母ちゃんの思い、みんなにすごく響いたと思います。

自分の子どもに簡単には語れないんです。どう語るか悩んでいる、苦しんでいる。そんなしんどさがあるんです。このことをしっかり学び、人権教育の重要性を噛みしめていきましょう。

森口先生のお話などを聞きながら、私自身も、差別はいけないということは、分かっているんです。だけど差別の現実って

うのは、そんなふうに切ない、辛いということを、今日改めて感じました。そのことをまた高瀬中学校のみんなと考えようと思っています。

まとまらないんですけど、今日のことをしっかりと、これからにつなげていこうと思います。はなちゃんとチェリーさん、ありがとうございました。今日、出会えたことに本当に感謝したいと思います。



**八万中学校教員 吉成** 先程、bx くんが「人権こども塾」の話を出してくれたので、全体に紹介をしておこうと思います。

今日、受付で配られた紙の中に、「みんなでトークオーバー・人権こども塾文化祭2023」っていうのがあったかと思いますが、「人権こども塾」というのを始めました。

中学生集会に行っているメンバーを中心に声をかけて、去年からスタートさせたんなんですけども、中学生集会が終わった後、去年は少し人数が増えたんですね。それで、もしかしたら今年も増えるのかもしれないなと思いつつ、今のところは八万中学校と松茂中学校のメンバーに高校生が加わってという形でやっています。もし興味ある人は声をかけてきてください。

それで今回、文化祭をやってみようという話が出て、11月5日、休みの日に、「県立二十一世紀館イベントホール」で文化祭をします。いろんな人も招いて、みんなで話し合いができたかなあと考えていますし、

中高生だけで話し合いができる時間も設けたりということ考えてみます。

中学生集会自体はこれで終わってしまうわけですが。もし次にするとしても、来年の4月からじゃないですか。その間めっちゃ時間があるでしょう。めっちゃ時間がある間は、それぞれの学校の取り組みに任せられてしまうわけなんですけども、私としても、個人的に「あんなことをしてみたいな」「こんなことをしてみたいな」「こんなことを学んでほしいな」とか、「こんな人と出会ってほしいな」とか、「こんなところに連れて行きたいな」という思いが私の中にもあるので、「人権こども塾」というのをするようにしました。もし、関心があったら参加するようにしてください。

今日は、午前中にチェリーさんとはなちゃんに話をしてもらって。テーマは「部落差別」「部落問題」のことについてだったんですけども、昼からみんなの話を聞いていくと、例えば「認知症」の話であるとか、障がい者の問題であったりとか、発達障がいであったりとかいう話が出てきましたし、今ほどはセクシャルマイノリティの話が出てきたと思うんです。皆さんのなかから出てこんかなと思いつながら、ずっと我慢して聞いてはいるんですけども、宿題にします。考えてください。

いろんな人権課題がありますよね。差別問題、人権課題ありますよね。「共通すること」っていったい何なんだろう。そこが見えて来なかったら、別個のことがいくつもの柱のように立つだけで、それぞれ別個のことになってしまうと思うんです。でも、別個のことじゃないと思うんです。本当は。それぞれの人権課題がどこかでつながっていると思うんです。さて、それはいったい何なのか。そこが見えてこなかったら、「ああ、また新しい差別が出てきたわ」「ああ、また新しい人権課題が出てきたわ」「何でこ

んなにいっぱい出てくるんやろな」「いつまで経っても昔の差別はなくならんし」みたいなところに陥ってしまうような気がするんです。宿題です。みんな考えてみよう。共通することは何なんだろう。もうこの短い時間では無理やから。だから考えてみよう、それを。私からの1年間の宿題です。以上です。

**司会者 (by)** シンジさんのお隣の fi さん。一言お願いします。

**徳島中学校PTA会長 (fi)** 徳島中学校の PTA 会長をしております fi と申します。突然にマイクをお借りすることになって驚いているんですが、僭越ながら少しお話をさせていただきます。

今回、初めてこの会に参加させていただくことが叶いました。正直、本当にびっくりしていることばかりです。この会をされた中学生の方もそうですが、先生方のお話も、もっと早くに聞きたかったなど。何なら30数年前に、こういう中学生だった時代の自分がこういう場に居合わせて、こういう話を耳にできたら良かったなあと思います。

さっき、dx さんにも話したんですが、私の中学校時代なんかは、もしかしたら、この場におられる皆さんもそうかもしれませんが、人権委員さんであったりとか、部活動だったりとか、クラブだったりとかに所属をしておられる方がほとんどではないのかなという感じでした。今は、そうではなくて、さっきお話にもありました。自分自身で参加されたという話を聞いて、いろんな発表もされていて。

私は、午前中、所用で来られなくて、午後からの参加で無理に入れていただいたんですけど。「LGBTQ」のお話もそうですが、おじいさま、おばあさまの認知症のお話、

ご自身の障がいの話、そういうお話を拝聴するにつれ、すごく身につまされました。いろんな思いがあって、いろんな意見があって、いろんな気持ちでここに座っているんだろうなと思います。

私自身、正直に申しあげると、親族に障がい者がいるわけではありません。身内にも生活に困っているような、強いて言えば、私のいとこの子に「吃音症」という、喋りが少し難しい、ご存じの方がいらっしゃると思うんですが、ちょっと伸ばしたりとか、詰まったりとか、吃音という障がい、本人は障がいとは思ってなくて、「個性」だというふうに言っています。

でも、今日お聞きしたお話の中で私が感じたのは、「見える障がい」「見えない障がい」そういった、目に見えること、耳に聞こえることだけではなくて、さっきおっしゃってたような「私とあなた」「I と You」というのがすごくいいお話だと思ったんです。とかく、年配というか、年を重ねている人間からすると、「最近の若い子は」という括りをしますよね。そういうことではなくて、自身も若い時があったはずです。この子らと同じくらいの年代を過ごしてきました。忘れてしまっていたりするんですけど、決して忘れずにいたいなと思うんです。



自分も中学生の時にすごく悩んだことがありました。いろんなことで悩みました。

友達とのつき合いもそうですし、家庭でもそうだし。高校に入ったらまた、私の通っていた高校は、徳島県立城ノ内高等学校、今はもう、中高一貫校になって名前も変わっているんですが、当時は徳島北高校というのがなくて、みんな橋を越えて城ノ内高校へ通って来ていました。城ノ内高校には、たくさん当時、被差別部落、昔そういうふうな名前と呼ばれていたところの友達がたくさんいて、私はそういう友達の中でいろんな悩みを聞きました。

「あなた、本人じゃないからわからないよね」と言われながらも、だけどその子たちの気持ちに、ずっとそばにいるような気持ちで生活をしてきました。午前中講演が聴けなくて非常に残念だったんですけど、その重さ、その辛さ、それをどうにか軽くしてあげられないかなという気持ちでいたんですけれども、こういった会に参加するチャンスがなかったので、私は私なりに、私のやり方で、そういう友達の心に寄り添う方法を一生懸命考えてきました。

この度、徳島・名東郡PTA 連合会の中で、dxさんがご自身のお話をなさった時に、「ああ、やっと出会えたな」と思ったんです。そういうお話ができる人と。そしてこういう場をPTA 連合会の中で、ここにこれだけしかないです、中学生の皆さん。もっとたくさんの人に、もっといろんな中学生の子たちに、同じこういう場にいたら話せること、こういう場でないと話せないこと、そういう場を与えてあげたいなと思ったんです。私、会長職としては2年目です。この度、大きな副会長職を連合会の中でお引き受けしたので、是非ともこういう会を、先ほどの先生方の言われたように、PTA 連合会の中でも立ち上げて、そういう人権の会、集まりというような中でできるのであれば、是非、声を挙げたいなと思いました。難しい言葉だと、ここにいらっしゃる中学

生の皆さんには、もしかしたらわかりづら  
いかなと思うんですけど、この今朝配られ  
てたプリントの中の7番に、「この大会で学  
んだことを、それぞれの学校や地域での活  
動に生かしていきましょう」というふうに  
書いてあります。たった1行ですけども、  
これはすごく大きな一言だと思うんです。  
どんな形でもいいんです。「私、こんな会に  
行って来てな、こんな話聞いて来てな、こ  
んなん思ったんよ」ということを、どうぞ、  
地元へ帰って、学校で、友達とでもいいで  
す。お父さん、お母さん、お兄さん、お姉  
さん、妹さん。今日のこの会に行っていた  
ということをご存じじゃなくても、夏休み  
明けて、是非こういう話聞いてきたんよ。  
こんなんあったんよ。そんな重い言葉じゃ  
なくていいんです。ちょっと一言伝えたら、  
それが種まきになると思うんです。  
私が、こうして dx さんにお話を伺ってここ  
に来たように、私も種をまいていただいた  
一人だと思うんです。なのでどんな形でも  
いいです。まずは興味を持つことという  
のが窓口になります。種まきというのは、「そ  
こからどんな芽が出てくるか」ということ  
になると思うんです。すごく言葉としては  
安直かもしれないですけど、さっき言  
われていましたが、どんな柱であってもそ  
うだと思えます。いったいどういふふう  
に捉えるか、どんなふうにか考えるか、  
いろんな意見があると思います。否定的な  
意見、賛同的な意見、わかりやすい意見、  
わかりにくい意見。いろいろあると思う  
んですが、どうぞ、この場に居合わせた  
ことをすごくラッキーなことだと思っ  
てほしいんです。選ばれた人のように思  
います。自分が来れなかったから言うん  
ではないですけど、ここに来て、こうい  
う経験をしたこと、私ももちろん、今日  
その一人です。すごくいいチャンスを与  
えていただいたなと思いません。種まき  
をどうしていこうかと思っ

クワクしています。皆さんも是非、帰っ  
たら小さな種まきをしていただきたいな  
と思います。

上手くまとまらないんですが、今日、こ  
こに来られたこと、皆さんと出会えたこ  
と、本当にうれしく思っています。ありが  
うございました。

**藍住東中学校教員 dn** 1分だけ。勇気を与  
える一言を言います。私は小学校5年生の  
時に、小学校の金管バンドに入ったんです。  
当時、「性の壁」と言ったらおかしいです  
けど、金管バンドのリズム隊は女の子しか  
ない。その中に1人入りました。受け入れ  
てくれた先生もすごいと思うんですけど、  
その当時は、女の子の中に入っても違和  
感がないくらい可愛かったのでいけたん  
ですけど。一步踏み出せば簡単です。1年  
間は、私、リズム隊ではただ1人の男で  
す。でも、



次の年は同級生が5人入ってきました。実  
はやりたかったんだよねって。誰かが1  
つ扉を開くと、その後ろには、必ずつい  
て来る人たちがいます。なので小5の時  
は女の子の中で俺1人やと思ったんです  
けど、幸せな時間を過ごさせていただきました。  
その当時は可愛かったんで違和感はな  
かったです。以上です。だから、1歩を  
踏み出しましょう。

**司会者(ag)** ありがとうございます。ちなみ

に5秒オーバーです。(笑い) 他の意見はありませんか? 森口先生ありませんか。

**松茂中学校教員 森口** 64歳になりました。14歳の子どもたちの人権の授業をするんですけど、教員になって42年になりますけど、こんな幸せな42年間で用意されとるとは、大学を出た時には想像もしませんでした。語ることに自分をさらけ出すこと。それが皆さんの生きる世界を変えます。

2年前、藍住中学校から1人、aaさんが参加しました。去年、吹奏楽の大会で本大会に参加されなかった、その切ない思い。そういう思いを、吉成先生を中心に受け止めて今日の日になりました。それで次本先生が非常に喜んでるんですけど。やっぱり藍住の子どもたちが、aaさん1人じゃなくてたくさんの仲間と参加する。「1つの言葉で変わる 1つの行動で変わる」まさに今年のスローガンがね、ホンマに実行されてきた。これは本当にすごいことです。たった1人で参加した学校もあるし、2人もあるし。でも、そこから始まっていきます。なかなか自分をさらけ出すということが難しいです。でも、語った瞬間に、大人も子どもも一緒です。中学生も一緒です。いつか誇りになります。隠して、逃げてごまかしていたら、ずっと卑屈なままだけど、語った瞬間、誇りになります。そこに仲間ができます。

板野中学校に赴任したのが1990年。もう、33年が経過しています。その時に、全校生徒の前で、クラスの生徒の前で、部落差別の中を生きてきた自分、結婚差別で苦しんだ自分をまさかさらけ出すとは思いませんでした。でも、語った瞬間、世界が変わっていきます。仲間ができていきます。この中学生集会在が、28年続いたのも、そこにあると思います。今日の午前中の2人の語りはやっぱり震えます。いろんなことがよみ

がえってきます。力が湧きます。



部落差別の現実はやっぱり切ないです。悔しいです。でも、それを乗り越えていく仲間の関係というのは誇りです。この絆というのは、生涯の絆です。何年後、数年後、この中の誰かが、また舞台上に立って語っていく。それが受け継がれていく。人権教育、人権学習は、本心を語り合う人権教育は、よろこびです。きれいごとで終始したら何も残りませんが、自分のことを安心して語れる。主体的に語る。次から次に手が挙がる。1991年に取り組んだ板野中学校3年B組の授業の取組で、私は文部省に通うようになります。そこで「スダチの苗木」「峠」という資料を書くようになるんですけど、その時の授業を、1991年度の板野中学校3年B組の授業を、1学期に松茂中学校の2年生の生徒に見せました。その授業を見たある男の子が私の所に来て言いました。「先生、ボクのクラスもこんなクラスになりますか?」私は、「なるよ」と返しました。実際そうになっていくんです。「わがこと」として自分の言葉で語る。それができるから、aaさんたった1人だったのが、6人、7人になっていくんです。

みんなの本気の言葉が、皆さんのクラスを変えていくだろうし、皆さんの関係を変えていくだろうし、そういう深い深い絆をつくりませんか。8月23日、dxさんが昨年度のことを鳴門市人権地域フォーラムで語

ってきます。会場は、鳴門の競艇場、ボートレース鳴門です。その日は競艇はありませんけど、是非来てください。今年、香同教大会で「スダチの苗木」と「峠」を1時間半話りますので。今日、中学生が積み上げてくれた人権教育の感動とよろこびが、多くの大人の心に染み込んでいくフォーラムになると思います仲間連れて来てください。そういう出会いとつながりができていたらと思います。チェリーさん、はなちゃん、本当に心が震えました。感動しました。ありがとうございました。

**司会者 (ag)** まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで全体会午後の部Ⅱを終了したいと思います。

小豆島の皆さんがここで退場されます。拍手をお願いします。

皆さん、ご協力ありがとうございました。有意義な話し合いができたと思います。今日の話し合いをきっかけに人権問題をさらに深く考え、各学校に持ち帰ってください。

それでは、全体会午後の部を閉じることにします。ありがとうございました！

このあと引き続いて、閉会行事に移らせていただきたいと思いますので、準備ができるまでの間、しばらくお待ちください。

